

令和6年度第3回東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）

次 第

日時：令和7年3月17日（月）

10時00分～

場所：東温市役所4階 大会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議・報告事項

(1) 令和7年度歳入歳出当初予算（案）について

(2) 令和7年度取組概要（案）について

(3) 地域公共交通利用促進事業支援業務（スタンプラリー）の結果報告について

(4) 東温市地域公共交通計画改訂業務に係る事業者選定について（案）

(5) 東温市地域公共交通計画改訂業務プロポーザル評価委員会設置要綱（案）について

(6) その他報告事項について

4. 閉会

<事前送付資料>

【資料1】令和7年度歳入歳出当初予算（案）

【資料2】令和7年度取組概要（案）

【資料3】とうおん公共交通シール&クイズラリー結果報告

【資料4】東温市地域公共交通計画改訂業務に係る事業者選定について（案）

【資料5】東温市地域公共交通計画改訂業務プロポーザル評価委員会設置要綱（案）

東温市地域公共交通活性化協議会(東温市地域公共交通会議)委員名簿

	団体	役職	委員	備考
1	東温市	副市長		
2	株式会社伊予鉄グループ	取締役	竹中 由紀夫	欠席
3	東温市タクシー連絡協議会	会長	和田 宏一	
4	愛媛県バス協会	専務理事	松本 真一	
5	愛媛県ハイヤー・タクシー協会	専務理事	谷口 政賀津	欠席
6	国土交通省松山河川国道事務所	計画課長	森倉 遼太	代理:中尾 正憲
7	愛媛県中予地方局	建設企画課長	清水 一博	
8	東温市産業建設部	部長	山本 一英	
9	東温市区長会	会長	池川 良徳	
10	東温市老人クラブ連合会	会長	東 正史	
11	東温市婦人会	会長	萩原 貴美子	欠席
12	東温市PTA連合会	顧問	松本 司	欠席
13	東温市社会福祉協議会	会長	菅野 邦彦	
14	市民の代表(公募)		渡部 元衛	
15	市民の代表(公募)		横手 裕子	
16	松山南警察署	交通課長	堀田 大樹	代理:濱田 哲伸
17	伊予鉄道労働組合	副執行委員長	埴田 良太郎	欠席
18	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (総務・企画担当)	山本 美恵子	
19	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (輸送・監査担当)	増田 輝彦	
20	愛媛県中予地方局	地域政策課長	小笠原 貴史	

【アドバイザー】香川高等専門学校	教授	宮崎 耕輔	
------------------	----	-------	--

令和6年度第3回東温市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時： 令和7年3月17日 10:00～11:30

会 場： 東温市役所 4階 大会議室

1. 開会

進 行： これより令和6年度第3回東温市地域公共交通活性化協議会を開会する。
はじめに事務局より、委員の皆様へ報告させていただく。現在、協議会の会長職について、副市長が2月28日退任され、不在となっている。協議会規約並びに会議規則に基づき、新しい会長の選出までは、副会長である和田委員に会長代理を務めていただくこととする。

2. あいさつ

副 会 長： <挨拶>

3. 協議・報告事項

(1) 令和7年度歳入歳出当初予算（案）について

事 務 局： <説明【資料1】>

副 会 長： ただいまの説明について、ご意見等ないか。

副 会 長： 特に、意見等ないようである。事務局案のとおり、来年度の当初予算案についてご承認を頂けるか。

各 委 員： <<承認>>

副 会 長： それでは、当初予算について資料の通り決定する。

(2) 令和7年度取組概要（案）について

事 務 局： <説明【資料2】>

副 会 長： ただいまの説明について、ご意見等ないか。

横 手： パーク&ライドについて、川内営業所のパーク&ライドは含めていないのか。

事 務 局： 川内営業所のパーク&ライドについては、伊予鉄バスの管理であるため、含めていない。

横 手： 前回の協議会でお話があったので、入れると思っていた。一般の人が使うには、使いにくい縛りがあるようである。
南方や横河原の土地は、お金で借りているのか。

事 務 局： どちらも市の管理地をパーク&ライドとして活用している。下の町は川内町の商工会跡地、横河原は市営住宅の利用されていないところを活用している。

横 手： 長く委員をしていて、パーク&ライド等の取組も少しずつは前進していると思うが、なかなか進んでいない。色々な会議に出ていると、年を取って東温市に住むには車がない生活が良いという若い方の意見もあり、大事なことであると思う。医療センターなど、駅の近くの民間の土地をお金を出して借り、パーク&ライドとして使用すれば、利用しやすいのではないかと。
また、重信地区の高校生は横河原線を利用しやすいが、川内地区の高校生は駅まで行くのが大変と聞いているので、子どもの減少対策もできれば良いと考えている。

事 務 局： 市としても、駅などの近くで使える場所があれば良いと思っており、現在は民間の駐車場や、空き地なども増えている状況もある。
今後、出来る限りそのような適地があれば、考えていきたい。

渡 部： 山間部に行くと、シニアカーで買い物や病院に行かれている方がいる。東温市役所から、4キロぐらいあるような山間部である。そういった場所で、地域検討組織の立ち上げに向けての協議を行っていただきたい。
目に見えないところに交通難民の方がいらっしゃるので、自治会で地域で人口がどのぐらいいるのか、子供たちや高齢者がどれくらいいるのかなどを話し合うワークショップを立ち上げないと前に進まないと思う。公共交通を利用して生活が成り立っていることについて、その地域の中で考えることを進めていただきたい。

事 務 局： 来年度に、地域公共交通計画の改訂業務を予定しており、その中で地域の意見を聞くためのワークショップを何度か予定している。地域の検討組織の説

明もさせていただいて、立ち上げに向けて地域の方に対しても勉強していただくことを考えている。

渡 部： やはり主体は住民である。自分たちが困っていることに対して地域全体で考えることが重要であると思っている。

副 会 長： 他に質問はあるか。

小 笠 原： 地域検討組織について、現行計画で立ち上げる予定の組織数はどれくらいか。

事 務 局： 計画では5年間で5組織としている。昨年度1組織が立ち上がり、目標としてはあと4組織必要ではあるが、来年度ワークショップを行う予定としているので、目標である5組織の立ち上げに取り組んでいきたいと思っている。

小 笠 原： 幅広く声掛けをして、住民が立ち上げの機会を設けたいということであれば、その支援をするということか。

事 務 局： そうである。

横 手： 1つ立ち上がっているというのは、どのような組織か。

事 務 局： 当協議会でも立ち上げについてご報告をさせていただいている田窪の組織である。

横 手： 解散されたのではないのか。

事 務 局： その点については後ほど報告をさせていただく予定である。

副 会 長： 事務局案のとおり、来年度の取組概要についてご承認を頂けるか。

各 委 員： ≪承認≫

副 会 長： それでは、原案の通り取組を進める。

(3) 地域公共交通利用促進事業支援業務（スタンプラリー）について

事 務 局： <説明【資料3】>

横 手： 色々な乗り方、乗り物、梅本のループ線等の路線があるのを知らなかった方も結構いらっしやったと思うので、様々な路線のことを知っていただけたことは本当によかったのではないかなと思う。

私も参加しようとしたが、やはりタクシーに乗るのがネックであり、時間が取れなかった。私たちはまだタクシーをあまり利用する年代ではないので、わざわざ利用するのがしんどかったという思いはあるが、私が所属しているみんなの公共交通を考える会のおばあちゃんが、賞品をいただいております、すごく喜ばれていた。楽しくてよかったと言われていた。

しかし、色々な乗り物に乗ってもらうのは良いと思うが、メインは電車とバスであると思っている。電車とバスだけであれば、高校生がもっと頑張って参加したのではないかと考えたりもするが、今回は皆さんに知ってもらって本当によかったと思う。

事 務 局： 今回は主に 10 代未満の方が多く参加されて、小学生と幼稚園・保育園にはチラシを多く配布できたが、中学生高校生までは配布が回らなかった部分がある。

今後実施する際はこの点を踏まえいろんな世代に参加していただけるように考えて実施したい。

横 手： 興味がなかった、今まで乗っていなかったという人が、ひと月に 1 回でも使うようになったら、大きく数字が変わってくると思うので、乗ることの重要性、横河原線があることのありがたさ、バスに乗って川内から松山市駅に行けるありがたさなどを皆さんに知ってもらいたいと思うので、ぜひまた行っていただきたいと思う。

副 会 長： 他に質問はあるか。

副 会 長： 特にないようなので、次の議題に移る。

(4) 東温市地域公共交通計画改訂業務に係る事業者選定について

事 務 局： <説明【資料 4】>

副 会 長： ただいまの説明について何かご意見はあるか。

渡 部： プロポーザル方式というものを教えていただきたい。

事務局： 通常の入札であれば、金額を入札いただいて一番安い業者と契約をするものであるが、プロポーザル方式は、金額に加え、入札しようとしている業者の提案内容、業務の実施体制、過去の実績、プレゼンテーションの内容についてそれぞれ点数を付け、一番評点が良い業者と契約をする形となる。金額だけではなく、提案内容も評価して点を付けるため、安かろう悪かろうではない業者が選ばれる選定方法である。

渡部： 安いほうが良いが、内容を最も重視して選ぶというのは、少し金額が高いところを選ぶこともあり得るとのことか。

事務局： そのとおりである。

副会長： 他に質問はあるか。

副会長： 特にないようなので、事務局案のとおり進める。

(5) 東温市地域公共交通計画改訂業務プロポーザル評価委員会設置要綱(案)について

事務局： <説明【資料5】>

副会長： 何かご意見はあるか。

副会長： 私からであるが、附則の日付が入っていないがいつからの施行か。

事務局： 本日も賛同いただけたら、本日の日付が入る。

副会長： 承知した。
他に質問はあるか。

副会長： 特にないようなので、事務局案についてご承認を頂けるか。

各委員： <<承認>>

副会長： それでは、事務局案のとおり要綱を決定する。

(6) その他報告事項について

事務局： 東温市地域公共交通計画に基づく地域検討組織「愛顔咲く よしい地域 街づくり協議会」について報告する。「愛顔咲く よしい地域 街づくり協議会」は、令和5年度よりよい地域における「高齢者のフレイル防止」「高齢者の交通事故防止」のためオンデマンド交通の構築を目的とし、東温市地域公共交通計画に基づく地域検討組織として活動していたが、今年度をもって活動を終了し、解散することを報告する。

副会長： 何かご意見はあるか。

横手： 解散となった経緯を教えてください。また、解散となったため、目標である立ち上げ数は残り4組織から5組織となり来年度はまた新たに5組織立ち上げることか。

事務局： 目的が達成されれば解散となることもあるため、立ち上がった数として含めている。経緯については、オンデマンド交通を検討されている地域が東温市が作成している「地域における移動手段導入マニュアル」において該当しない地域であり、また、既存の公共交通を含む地域であるため、現段階での検討は難しく、認識の合意に至らなかったという理由で、解散の申し出があった。

横手： 困っている方も何人かはいて、会が立ち上がったと思うので、人が多いところでも困っている人への対応やすくい上げも、今後この協議会でも考えていくべきことだとは思う。私としては、東温市は公共交通が整っているところがあるので、80歳になっても20分、30分ぐらい歩けるような健康づくりをする町をこれからみんなで頑張って、バス停や駅までたどり着けるような足腰でしようというのも大事なことかなと思う。

足が悪い方もいると思うので、そういう方がタクシーとかを使わないといけないと思うが、タクシーを利用しなければいけない方、ご高齢の方には、補助券を配布する等、様々なやり方を今後模索していく場が必要かと思う。

都市部の車の免許のない女の方が一番困っているのではないかと思うので、その点も考えていかないといけないと思う。

事務局： 免許返納や福祉、公共交通のそれぞれが、もう少し一体となった政策を考えていきたいと思っている。

渡部： 地域で始まった取組が途中で解散となり残念だと思っている。横手委員が言

われたように、困っている人が取り残されることがないようにフォローできるようにお願いしたい。

事務局： 今後、頑張っていきたいと思う。

副会長： 全体を通じたご質問はあるか。

横手： 計画改訂ということで目的も変わると思うが、観光などを含めた利用の仕方も言われていたと思う。私たちもみんなの公共交通を考える会で、バス路線を利用して、景勝地は山間路線を利用して行きつくしている。良いところも結構あり、応募を募れば行く方も結構いるので、観光を含めて利用を促すのも良いのではと思う。

また、市外の方たちも興味を持たれて参加されており、皿ヶ嶺などで山登りをされていて、連休では駐車場がいっぱいになったり、広島から観光バスが来たりしている。このような点を東温市からアピールする方法を考えていただきたい。

また、公募で募集する場合にトイレが整備されていないと人を呼べないので、整備をしていただきたい。山之内ではトイレはあるが汲み取りされていないなどがあるので、綺麗にしていれば、誘いやすいと思っている。

路線バスも、皆さんが使えるように、こういうツアーがあるということを観光物産協会さん等とのコラボや仕組みづくりが出来れば、利用が増えるのではないかと思う。東温市には観光課がないのもったいないので、提案をしていただきたいとも思っている。

事務局： 各課との連携であったり、交通事業者間の連携や地域との連携が今後の公共交通を支えていくには非常に重要となってくると考えている。

次の計画では、そういった内容も十分検討して今後取り組んでいきたいと思う。

横手： 山間部では、イノシシや猿がたくさんいるので、バスが必要であると聞く。多くの人に利用いただけるようにしていくのが重要である。中山間に人がいる意味を考えていかないと、今後大変なことになると思うのでお願いしたい。

副会長： 私も観光物産協会で理事をしているので、協会には伝えさせていただく。

副会長： 他に質問はあるか。

副 会 長： 本日は、アドバイザーの宮崎先生が出席されている。宮崎先生からアドバイスをいただきたい。

宮 崎： シール&クイズラリーは、「年に数回」の利用者が多く参加されているのが、良かったと感じている。昔に比べ、公共交通の利用者が爆発的に増えると抱えきれないので、現在、年に数回の利用者が年4、5回となるだけでも利用者が倍になるという考え方で行うと良い。

また、JR 松山駅では、デジタルサイネージでの観光情報を発信されているので、それを市民向けに周知するのも効果があると考えている。

パーク&ライドは、東温市が持っている遊休地を利用しているが、車を止めて利用しやすい土地でないと利用者を確認するのは難しいので、場所については考えるべきである。昨日、松山市の自動運転や郊外電車を利用したが、交通手段よりも、基本はバスや鉄道が乗り継いで利用しやすいかどうか、という点がベースとなるので、そこを基に考えていくべきである。

最寄り駅までは、大多数が歩きで向かっており、駅周辺に住んでいる方の利用者が多く、駅から離れている人は車で駅まで向かうというのがアンケートで分かっているので、パーク&ライドの整備は引き続き重要である。

デマンドの話があったので、補足をすると AI デマンドを導入しても一般的に乗り合わないことが分かっている。西条市では、電話予約でデマンドを導入しており、8～9割の高い乗合率となっている。理由としては、AI コンピューターで配車すると利用者に時間の調整を依頼することが難しく、一人ずつ運ぶことになってしまい、乗合率が下がってしまうためである。場所や地域によっては、コミュニティバスの方が良いというところもある。地域課題からどういうものが求められているかを考えていくことが重要である。

事 務 局： ライドシェアの取組について、愛媛県でも登録が増えているが、東温市で使えそうなライドシェア等教えて頂きたい。

宮 崎： 海外で実施されているやり方と日本のライドシェアは異なる。東温市でライドシェアという話となると、ドライバーが不足している場合や、ドライバーが出払ってしまって、車両だけが残っている場合には利用できる可能性がある。ただ、ドライバーになってくれる人がいるかどうかも課題となる。

和田副会長から補足はあるか。

副 会 長： 日本の場合は、タクシー会社が正社員で雇った従業員に自家用車で走ってもらう。社員として管理し、給料を払う必要があるため、そこまでの需要がない

と難しい。松山の事例として、会社の事務員によって運行されている。地方と都市部では、仕様が異なると思っている。

四国運輸局の増田委員からもご説明をいただきたい。

増 田： 先程の内容の補足として、松山市では社員として採用後、2種免許を取得するまでの方にライドシェアとして運行をしてもらっている事例もある。このような形でも使用いただければと思っている。

宮 崎： あるタクシー会社の事例を基に具体的な話をすると、ライドシェアで1人雇うと1日で経費が5万円かかり、これに対して、売り上げが5万円取れないと雇うことが難しい。運賃の話だけでなく、事業体や会社経営として考えていかなければ難しいと感じている。

副 会 長： 他に質問等あるか。

副 会 長： それでは、本日の協議事項は終了したので進行を事務局に返す。

4. 閉会

進 行： それでは、以上で本会議を閉会する。